

# 提案公募型教員配置の状況について

義務教育チーム

## 先進的取組みを提案公募し、応援します。

学校長や市町村の教育への想いや願いに応えるため、教員配置を工夫します。

### 小学校 1 年から 4 年における「提案公募型」のしくみ

学校には様々な課題があるため、県が独自に上乘せして実施している 30 人規模学級の基本は変えることなく、小学校 1 年から 4 年において配置している教員を「提案公募型」により先進的な取組みにも活用できるようにします。

実施市町村には具体的な目標設定と成果の公表をしていただき、他の市町村が成功事例を参考にできるようにします（県のホームページに掲載予定）

### 県単教員の活用（30 人規模学級）

### 30 人規模学級の基本は変えることなく

小学校名	ねらい	概要
小谷小学校 (小谷村)	〔保護者や地域が参加する <b>学校運営</b> 〕 開かれた学校・学級づくり	地域に開かれ、地域との連携を大事にした学校づくりのために、児童の安全を守るパトロールや見守り、学校環境整備など、学校づくりを支える学校応援団（仮称）を組織し、様々な形で学校や児童と連携する。 「いつでも誰でも学校を見て評価してください」という職員の意識・姿勢をつくるため、広く地域の方々に学校や授業を公開する。 児童や教職員全員が自己課題を設定し、仲間と関わりながら課題を解決する過程で、課題解決力など様々な力を育む。

〔参考〕他のテーマ  
キャリア教育、多文化共生教育など社会変化に対応した**教育内容**の充実  
教科担任制の導入や総合的な学力向上などの**指導方法**の更なる改善

3 小学校の統合  
(H18.4.7 開校)  
・南小谷小学校  
・中土小学校  
・北小谷小学校

提案公募はあったが、最終的に、30 人規模学級を選択した小学校（例：36 人 2 学級を選択）

小学校所在地区	ねらい
東信地区の A 小学校	軽度発達障害児などの個別支援
東信地区の B 小学校	集団不適応や軽度発達障害児対応
南信地区の C 小学校	軽度発達障害児への個別支援
南信地区の D 小学校	チームティーチングによる個別支援
南信地区の E 小学校	課題のある学年の副担任
中信地区の F 小学校	配慮を要する児童の個別支援
中信地区の G 小学校	学校全体の学力の定着状況を把握し、指導方法などを改善
北信地区の H 小学校	地域との交流
北信地区の I 小学校	個別指導の強化による学力向上

## 中 1 ギャップ解消に向けた提案を公募し、取組みを応援します。

取組みの目標や内容、成果を公表し、他市町村や学校が成功事例を参考にできるようにします。

### キーワード：校内体制によるチーム支援

1 小中連携 2 学習のつまずきへの対応 3 心の居場所づくり

**ポイント 1：** 1 学期～夏休み終了 中学校 1 年生への重点的対応

**ポイント 2：** 夏休み明け～2 学期 学習のつまずきへのフォロー

**ポイント 3：** 2 学期～3 学期 小中連携の重点時期

28校

中学校名	テーマ	主な取組み
野沢中学校 (佐久市)	「心の安定」 ～学習のつまずきに対する早期対応と 花壇づくり～	心の安定のための花壇づくりや作物作り等の活動を進める。 小学校を訪問し、学級担任、児童、保護者等との面談や授業参 観をとおして状況把握に努め、入学後の不登校を未然に防ぐ。 不登校生の親の会を定期的に開催する。
川上中学校 (川上村)	早期発見・早期対応	小中連絡会・交流会や小学生の中学校訪問(入学前体験)等で、 こまめな情報交換を行ない、早期発見・早期対応に努める。 「中1サポーター」を学校・家庭とをつなぐポジションに位置 付けるとともに、地域と連携を図りながらチーム支援を行う。 学級担任や教科担当との連携を図りながら、個別指導の環境が 整っている相談室を活用して、補習的な授業を行なう。
第一中学校 (上田市)	「あの生徒・この生徒」を大切に した支援	「気になる生徒」の個別指導計画を立て共有化を図る。 プロジェクトチームによる、孤立しがちな生徒へのチーム支援 を行なう。 小学校6年間の指導要録の詳細な分析を行うとともに、予防的対 応も行なう。
第二中学校 (上田市)	チーム支援による迅速な初期対応	生徒指導主事、中1サポーターなどによるチーム支援により、 迅速な初期対応を行なう。 「いつでも、どこでも相談室」を設置し、小学校での不登校経 験者等が相談できる体制を作る。
第五中学校 (上田市)	不登校渋りのきっかけを見逃さない 体制作り	二日連続して欠席した場合は、家庭訪問する等、チームとして 早期対応を行なう。 小学校6年間の欠席状況の調査を行うとともに、学年体制チー ムを組んで、中1の30日以上欠席を5名以内にする。 個別指導で、小学校の算数・漢字の個別指導を行なう等、「学習 のつまずき」への対応を図る。
第六中学校 (上田市)	不登校8段階に応じたきめ細やかな 対応	職員のチームにより、「学習のつまずき」への対応やコミュニケ ーション能力の向上を図る。
東部中学校 (伊那市)	小学校時代から「顔の見える」関係 づくり	中1サポーターが小学校に出向き授業を参観したり、学年会等 に情報収集のため参加し、入学時のギャップ解消に努める。 不登校生について、中1サポーターと心の教育相談員が家庭訪 問を繰り返す中で心の交流を図る。

中学校名	テーマ	主な取り組み
赤穂中学校 (駒ヶ根市)	どの子にも「こころの居場所」がある学校	<p>中1サポーターを一学年に配置し、学級不適応感のある生徒の早期発見等を図る。</p> <p>小中連絡会に、小6の担任教師を招き、生徒の様子や中1ギャップの具体的対応策を検討する。</p> <p>中1サポーターを、小学校6年の不登校傾向児との連絡窓口(通年)とする。</p>
辰野中学校 (辰野町)	エンカウンター等で人間関係づくり	<p>4月、宿泊体験学習を行い、人間関係づくりを促進する。</p> <p>小中学校の授業交流や中1サポーターの小学校訪問等により、小中連携を図る。</p>
箕輪中学校 (箕輪町)	チーム支援でどの子にも居場所を	<p>プロジェクトチームを編成し、入学当初の早い段階から、生徒・保護者にきめ細かな支援を行なう。</p> <p>中1サポーターが小学校訪問をし、情報の共有化など小中の連携を図る。</p>
宮田中学校 (宮田村)	1村1小中学校のメリットを活かし、個々の生徒へのきめこまやかな対応	<p>友人関係が固定化している面があるので、スクールカウンセラー等との連携を深め、学習指導や悩み等の相談を通して新しい人間関係を築けるよう支援する。</p> <p>「小中参観週間」を設け、互いに授業を見合い授業改善に役立てる。</p>
飯田東中学校 (飯田市)	りんご並木が織りなす小中連携	<p>りんご並木作業等の中学生と小学生の共同作業が継続的に行なえるようにする。</p> <p>気になる生徒の「個別指導計画」を作成し、4月当初から全職員が共通理解に立って指導を行なう。</p> <p>中学校教員による小学校への出張授業を行なう。</p> <p>休み時間を生徒と過ごしたり、学年会室等で相談に応じたりするなど、心の居場所づくりを行なう。</p>
阿智中学校 (阿智村)	情報の共有化を大事にした個別支援の充実	<p>学校生活に不適応傾向を示す生徒の情報の共有化を図る。</p> <p>学習支援室を設置し、中1サポーターが学級担任と連携し、個別の学習支援を行なう。</p>
喬木中学校 (喬木村)	柔軟な指導体制と地域ボランティアの活用	<p>長期休業などに地域ボランティアによる個別指導を行う。</p> <p>新入生体験入学時に、「英語」「数学」等の苦手意識が大きい教科の模擬授業を行なう。</p>
檜川中学校 (塩尻市)	心の支えと学習のつまづきへの早期対応	<p>古くからの共同体規制の残る地域における中1ギャップへの対応を図る。</p> <p>学習面でつまづきを持った生徒に、独自のカリキュラムによる指導を行なう。</p>
高綱中学校 (松本市)	一人ひとりの生徒が自分自身の生き方を見つけるための支援	<p>教室に入れない生徒のそれぞれの進度に合わせた個別指導を行なう。中1サポーターは校内のコーディネーターとして、出身小学校や家庭等との連絡を行い情報を収集し、チーム支援の中心的役割を担う。</p> <p>清掃活動等の学級活動や総合的な時間におけるサポーターの支援により、生徒の中学校生活のスムーズな適応と学級内の人間関係の構築を図る。</p>
波田中学校 (波田町)	生徒の悩みや思いに寄り添いながら、人間関係の形成力を育む	<p>人間関係づくりのためのソーシャルスキルトレーニング等の支援を行なう。</p> <p>3日連続して欠席した場合、担任とともに家庭訪問をし、早期の対応を行なう。</p>
豊科北中学校 (安曇野市)	小・中連携の支援体制と安心できる居場所づくり	<p>小・中学校相互の学習参観を行なう。</p> <p>教室には入れない生徒のそれぞれの進度に合わせた個別指導を行なう。</p>

中学校名	テーマ	主な取り組み
高瀬中学校 (池田町)	心のひだにまで触れる教育相談	生徒の心に寄り添い、本音で語り合えるような教育相談を行なう。 教室に入れない生徒のそれぞれの進度に合わせた個別指導を行なう。
飯綱中学校 (飯綱町)	小・中連携による個の良さを伸ばす支援と居場所づくり	定期的に小学校での授業や小学校行事への参加等を行い、顔の見える関係づくり努める。 英数を中心に、基礎コースの担当者とともに個別学習等を行なう。
坂城中学校 (坂城町)	中学校出前授業	3学期を中心に、小学校への出前授業を行なう。 中1 サポーターを副担任に位置付け、より相談しやすい体制を整える。 家庭学習提出ノートを専門的に点検し、つまずきの原因を分析する。
屋代中学校 (千曲市)	チーム対応による不登校生支援	欠席日数が2日になった時点で、チーム支援を行なう。 生徒の要望に応じて、放課後や長期休業中の特別な学習支援を実施する。
中野平中学校 (中野市)	小学校高学年と中学校の継続的な支援体制づくり	小学校高学年の不応傾向児童に対して、入学前からのこまめな情報収集を行なう。 支援チームを組織し、個に応じた対応を図る。 学習相談日や放課後補充学習を実施する。
木島平中学校 (木島平村)	不登校を防ぐ初期対応	欠席・遅刻が3日連続したら、チーム支援を行なう。 生徒の状況に応じて、夏休み中に家庭訪問を行なう。 個別相談が必要な生徒には、学習相談を行なう。
栄中学校 (栄村)	誰でも主人公になれる中学校生活を目指す	小学校の授業参観を行なうとともに、小学生が中学校の授業・部活参観や各種行事への参加等を行なう。 保護者の相談窓口を設置する。
東部中学校 (長野市)	現状分析から発展とチーム支援	中学1年生の小学校での欠席状況の調査と分析を踏まえたチーム支援を行なう。 特別補習授業を実施する。
三陽中学校 (長野市)	登校渋りの生徒への個別支援	個に応じた学習支援や居場所作りを行なう。
篠ノ井東中学校 (長野市)	チームで取り組む適応支援	「校内チーム」、「地域支援チーム」を編成し、校内・外できめ細かい支援を行なう。 入学時に「カルテ」を作成し、入学時、夏休み等、時期にあわせた適切な指導をチームによって実践する。